

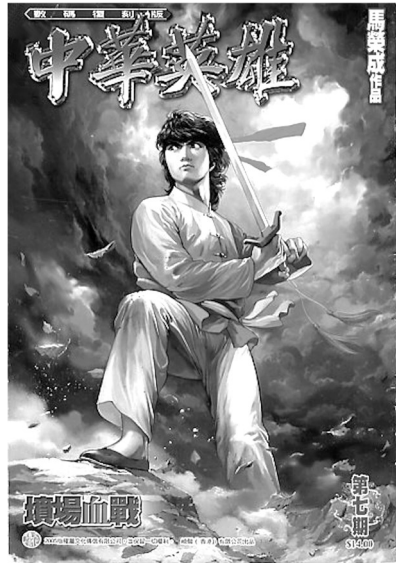
中華英雄

馬榮成/作 1981～89年

●漫画紹介●

民国初期。名剣「赤剣」を代々継承する華家の子・英雄は流浪のすえアメリカへ。チャイナタウンで現地中華マフィアや中国人搾取の悪徳西洋人らの戦いに巻き込まれ、妻を亡くし子と別れる過酷な運命にさいなまれながら、中国人のアイデンティティを賭けて果敢に立ち向かってゆく。

1981年、「龍虎門」でおなじみ黄玉郎の傘下で新聞連載→薄装本「酔拳」巻末連載から独立、やがて20万部の大ヒットに。当時人口500万強の香港で、換算すれば全盛期の週刊少年ジャンプなみの部数をたたき出していた。馬榮成が89年に玉郎機構から独立したのちもしばらく連載は続いた。



映画化作品

中華英雄

レジェンド・オブ・ヒーロー／中華英雄

現地公開：1999年 日本公開：2001年

【監督】 アンドリュー・ラウ(劉偉強)

【出演】 チェン・イーキン(鄭伊健)/ニコラス・ツェー(謝霆鋒)/クリスティ・ヨン(楊恭如)/スー・チー(舒淇)/ユン・ピョウ(元彪)



★映画鑑賞メモ★

制作・監督・脚本・主演は「風雲」とほぼ同じ。原作者も風雲からの流れであっさり「どうぞ一つ」と許諾を出したようだ。原作第一部「浪跡天涯編」、第二部「天熬孤星編」の中途までを映画化。最大のヤマ場・無敵とのNY自由の女神対決をクライマックスに、そこまでのストーリーをまあまあ忠実に追っている。米国渡航前、亀島でのバトルはバツリ割愛。

父・華英雄を追ってチャイナタウンに来た劍雄に昔日譚を聞かせるという形で前半は進行する。が、再会シーンでチェン・イーキンとニコツェが「親子」として顔を合わせるのにはさすがに無理がある…。原作どおり華英雄を白髪にしてむりやり年齢差を演出しているが、1999年だと伊健もニコも普通にヤングアイドルだったんだぞ。他にも諸々荒唐無稽なシーンはあるが、しかし中華楼や鉱山の巨大セットを組み、惜しげもなく燃やし壊すスケールの大きさには感服。原作の人気や「風雲」の成功を背景にしたビッグプロジェクトだったのだ。それにふさわしい骨太さがある。華英雄のしもべ、腕のない仮面の辣腕「鬼僕」を演じたのは日本のドラマ「ザ・ハンクマン」にも出ていたディオン・ラム。